

# 多摩支部会報第64号

(2024年11月1日発行)

## 明治大学発祥の地記念碑と記念碑祭

### 明治大学発祥の地記念碑

明治法律学校（明治大学の前身）は、岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の三人の創立者によって1881年（明治14年）1月17日、麴町区の数寄屋橋の一角（現在の有楽町・数寄屋橋交差点近く）、旧肥前島原藩上屋敷跡に開校しました。発祥の地記念碑は、1995年11月2日、

明治大学の建学の精神を顕彰し、教育の近代化の道標を明らかにしようと、東京・有楽町マリオン前、数寄屋橋交差点のニュートーキョービル前の公園（千代田区有楽町二丁目）に建立し、千代田区に寄付したものです。

かつて、外濠川に面したこの付近には、1691年（元禄4年）以来、旧肥前島原藩（現在の長崎県）などを治めた深溝松平家の上屋敷が置かれていました。明治維新後、屋敷は、政府の収用を免れて貸し出されることになり、民権結社による演説会などが盛んに催されました。若き法律家である三人は、屋敷の一部を借り受け、同心協力して明治法律学校を開校し、1886年（明治19年）に神田区駿河台南甲賀町（現在の神田駿河台）へ移転するまで、「権利自由」を校訓として、フランス法を中心として我が国の近代化を担う法曹の育成に努めました。



1911年創立30周年

### 記念碑祭

明治大学の創立の地が数寄屋橋にあり、そこに発祥の地記念碑が設置してあることを知る人があまりにも少ないことを憂えた先達たちが、明治大学の建学の精神「権利自由」「独立自治」と「明治大学発祥の地の記念碑」の存在を未来へ、永続的に伝えていくために、「明治大学発祥の地 記念碑祭」が、校友会東京都南部支部主催で、2010年

1月16日にスタートしました。来年1月26日（日）、「第16回明治大学発祥の地 記念碑祭」（東京都南部支部主催、東・西・北・多摩支部共催）が開催されます。ご参加希望の多摩支部の方は、江面多摩支部幹事長まで、ご連絡ください。

（出典：明治大学HP・校友会東京都南部支部HP）



# 地域支部だより一国立・国分寺地域支部

## 餅つき行事をいつまでも思い出の片隅に (見事に実った国立の稲穂)



「餅つき」のスタートは

○師走の風物詩とも言える。「国立の餅つき」行事がスタートしたのは、1996年(平成8年)11月、以来毎年開催(中止は、コロナで2回、雨天で1回のみ)され、この間、国分寺地域支部との共催、近隣地域支部への誘いや明大祭実行委員の現役学生と明大相撲部員の搦き手の応援も加わり、2016年には、93名もの参加があった。



2016年12月18日  
の餅つき風景



明大相撲部員の搦き手



堀田前国分寺地域支部長も大活躍



搦き立ての餅を絡み餅へ

### 田植え

○そうした中、餅つきに使う「米」も「国立産」にとの思いで、2017年から校友の沼崎信夫さんのご厚意(田圃の貸与・生育の見守り・道具の手配等)で田植え、そして稲刈りを行ってきました。今年も8回目を迎える田植えは、去る6月15日(土)、4地域支部(国立・国分寺・小平・あきる野)の皆さんと行った。(詳細は、多摩支部会報第61号を)



小柳文男(国分寺)さんの奥様



2024年6月15日の田植え

# 稲刈り

○その田植えから5か月後の10月14日(日)、6月に植えた稲の刈取りを行った。沼崎信夫さんからは、「今年の田圃には、蛙も蛇も全く見当たらず、加えて雀や鴨も飛んでこず、稲の被害が無かったことは幸いなのだが、これからの気候変動の影響が不安ですね。」と話していた。当日は、5地域支部(国立・国分寺・小平・あきる野・立川)24名の皆さんが参加。黄金色に見事に色づいた稲穂を刈取りました。鎌を持つ手つきも初めはぎこちなかったが、徐々にコツを掴み、約1時間30分程で全ての稲の刈取りを終了。その後、刈り取られた稲を束にして、稲架(はぎ)掛けをし、稲は数週間、天日と風で乾燥させることになります。



2024年10月14日の稲刈り

○全ての作業も終わり、大分腹も減ってきました。「昼食会」では、世話人の沼尻さんが腕に縋りかけたお弁当(豚バラのコーラ煮、だし巻き卵等)に「明大茶」、デザートに矢川の柿が出され、疲れも一変に吹き飛んだと思います。改めて、田植えから稲刈り、そして食事の提供に至るまで、沼尻さんには感謝の一言に尽きます。



沼崎信夫さん 沼尻 哲さん

当日のお弁当



# 収穫祭

○最後に残念なお知らせですが、1996年に始まって、28年にわたり続けてきましたこのイベントも、12月15日の「収穫祭」をもちまして、全て終了することになりました。沼尻さん、柳澤さん、土屋さんをはじめとした国立地域支部と国分寺地域支部の皆さん、本当にご苦労様でした。また、イベントにご参加頂いた多くの近隣地域支部の皆さん、現役の明大生の皆さん、そして、田圃を貸与して頂いた沼崎信夫さんなど多くの人のご協力でのイベントがここまで続けて来られました。厚く御礼申し上げます。なお、最後の行事になります「収穫祭」を、12月15日(日)に行います。器械ではありますが搗き立てのお餅(5種類絡み餅)と山形芋煮を召し上げて頂きます。

(記・写真:佐々木一郎)



# 地域支部だより 日野地域支部

スポーツの秋「ディスクゴルフ」で体を動かそう！

10月27日（日）立川昭和記念公園、午前中は、お天気にも恵まれ、絶好の運動日和となりました。日野地域支部4名と国立地域支部3名でディスクゴルフを楽しみました。日野の1名と国立の2名はディスクゴルフが初めてのとのことでしたが、コースを進むにつれ、だんだん慣れてきて、楽しくコースを巡ることができました。

以前、多摩支部で行っていた時は、肌寒い時期で、また半分コースがクローズでしたが、今回は1～18ホール（全ホールパー3、初心者はパー4）全て回れました。アウトコースの1～9ホールは初めての経験で、林間ホールや谷（流水）越えのホールもあり変化にとんだコースで楽しく回ることができ、良い運動になりました。また、実施したいと思います。



参加者：（日野）荻原、江面、小山、望月



（国立）若村、山下夫妻（敬称略）



記：江面利和  
写真撮影：若村和之

多摩支部企画委員会 副委員長 大河内公夫

10月21日(月)、秋本番とも思える晴天のなか、青梅市の青梅ゴルフ倶楽部にて、13地域支部から32名の幅広い年代(1963年卒~2000卒)の校友が参加し、第7回多摩支部ゴルフ大会が開催されました。

今回は8組フルメンバーと参加人数が多いこともあって、組合せを各地域支部と年次を混在させて編成し、東⇒西コース組と西⇒中コース組に分かしました。各組においては、参加メながら、交流の輪を広げ、楽しい時ゴルフ大会の最大の目的である各地図れたと思います。

ゴルフ大会の結果としては、大会加者の中からNET72.5と素晴らみさん(小金井)が優勝し、栄えあしました。また、ベストグロス賞は(八王寺)で、ニアピン賞は合計8が多かったこともあって5名の方賞「小波賞」「水平賞」に変更し、賞品を手にとられなかった方々には、がプレゼントされました。



優勝者：西海ひとみさん(小金井)

組数が多かったこともあって、表彰式は短時間で終了せざるを得ませんでした。土屋支部長よりご挨拶を頂き、優勝者を始めとして各賞受賞者のからの一言を頂いた後、佐藤副支部長(青梅支部長)の音頭で「1本締め」を行い、閉会しました。次回は、来春の開催(4月)となりますが、引き続き「青梅ゴルフ倶楽部」にて開催する予定です。大会を盛り上げるためにも、より多くの方のご参加をお願い致します。

れて9時03分に同時スタートンバーの1打1打に歓声を上げ間を過ごしました。多摩支部ゴ域支部間の交流・親睦は十分に

開催以来、初めて複数の女性参しいスコアに纏めた西海ひとるクリスタルトロフィーを獲得86に纏めた菊次伸夫さん本有りましたが、難しいホールが受賞し、残りの3本は「大波表彰を行いました。残念ながら参加賞として青梅特産のお土産



懇親会風景

第15回歴史探訪

～郷土（清瀬市）の歴史に触れる散策～

(滝の城跡から清瀬市域を望む)

秋雨の清瀬市 清戸～下宿～柳瀬川～中里ウォーキング

10月5日（土）、あいにくの秋雨の一日でした。午前8時30分、西武池袋線清瀬駅北口に、多摩支部の6地域支部（国分寺・小平・武蔵野・三鷹・東久留米・清瀬）22名の皆様が集合。当日のコースとして先ず向かったのは、①樹齢400年を超える杉の大木等に囲まれた清戸の「日枝神社」。明治22年（1889年）に誕生した「清瀬村」は一説によれば、清戸の「清」と柳瀬川の「瀬」を合わせて名付けられたと言われている。

次にバスで移動し、②「滝の城（廃城年：1590年か）跡」へ、この城は戦国時代の平山城で北条氏照の持城と考えられ、「滝山城」の支城と言われている。豊かな緑に覆われた断崖の上に、曲輪や空堀跡などが残っている。本丸跡には、「城山神社」が祀られている。この本丸跡からは、清瀬市域が一望できる。

③一向に止まない雨の中、下宿の「八幡神社」へ。江戸時代の終り頃から、今でも続いている、毎年5月に行われる「ふせぎ行事」（藁で作った大小の蛇を旧村境に取り付け、疫病や悪霊を村に侵入しないように祈願する行事）で使われた「藁の大小の蛇」が雨ざらしのまま残っていた。

④最後は、柳瀬川沿いの散策路を約3.3km歩き、中里の「富士塚」へ。享保18年（1733年）、清瀬に富士講が伝わり、文政8年（1825年）に塚を再築。今でも「富士登山」や「火の花祭り」等の行事が行われている。高さ9m程の「富士塚」を登れば、不思議に「富士山」に登頂した気分になりました。秋雨の中、傘を持ちながらの全行程7kmのウォーキング、全員、無事完走出来ました。

締めは、清瀬駅前「埼玉タンメン山田太郎」での「打ち上げ会」。雨に濡れた体に、喉を潤す「生ビール」、あったかい「タンメン」、そして共にウォーキングした校友の皆さんとの厚い交流は、最高の思い出になりました。最後に、永代支部長はじめ清瀬地域支部の皆様にはご協力頂き、厚く御礼申し上げます。また、小林信夫さん（国分寺地域支部副支部長）には、資料の作成やコースの案内等、大変お世話になりました。有難うございます。



滝の城本丸跡に  
建てられた  
「城山神社」前で



① 清戸の「日枝神社」



② 「瀧の城本丸跡」



「瀧の城二重堀跡」



「瀧の城跡」から望める清瀬市域



③ 「ふせぎ行事」の藁の蛇



雨ざらしの「藁の蛇」



④中里の「富士塚」



小林信夫さん



(写真；粕川偉三男、佐々木一郎)

## 野鳥に魅せられて そして地域貢献活動

矢場岩男 (多摩市地域支部 昭43・商)

体重の減量と健康維持のため始めたサイクリングの途次、多くのカメラマンの砲列が「カワセミ」(青い宝石とも呼ばれる)を狙っていました。

その美しさに魅了されたことが野鳥撮影のキッカケとなりました。以前から草花や風景写真は若干の嗜みがありましたが、野鳥撮影にはそれなりの道具の必要性を痛感し、500mm単焦点レンズを準備し、北は北海道から南は沖縄まで(多くの離島を含め)回りました。

その内容の一部は、上手下手はさておき「多摩支部会報第59号・61号」Photo Galleryに掲載させて頂きました。

海外撮影ではグランドキャニオンでの「コンドル」、アフリカのサファリを堪能しました。国内での離島めぐりの強烈な思い出は、昨年10月、野鳥の中継地と言われる能登の舳倉島へ。2泊三日の野鳥三昧。輪島で美味しい刺身に銘酒(?)千枚田で乾杯。金沢ではノドグロ寿司で舌鼓を打ち楽しい遠征でしたが、翌年元日(約2か月後)能登半島地震の津波により大きな被害を受けました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りします。



輪島港から舳倉島へ・左が矢場

小笠原遠征では父島から母島へ向かう途中で遭遇したザトウグジラの大きさに驚き、また母島につくなり「小笠原ノスリ」のお出迎えには感動しました。(固有種:母島メグロ)

エピソード:カワセミ愛好者の話ですが、大きな水瓶に小魚を放し一日に何匹食うかを観察したところ一週間の平均で17匹捕食したとのことでした。(観察時間5:00~18:00)



母島メグロ

また、写真に関する知識と技術を深めるため、フォトマスター検定(文部科学省後援)1級を取得し、その後地域の写真愛好家と共に「写真クラブ」を立ち上げ、年1回「写真展」を開催しております。

これが縁で、保育園での園児と「小鳥の話」の会開催や近隣の医院から、待合室に「患者の癒しになる作品が欲しい」との要望があり年2回程度差し替えして掲示しております。



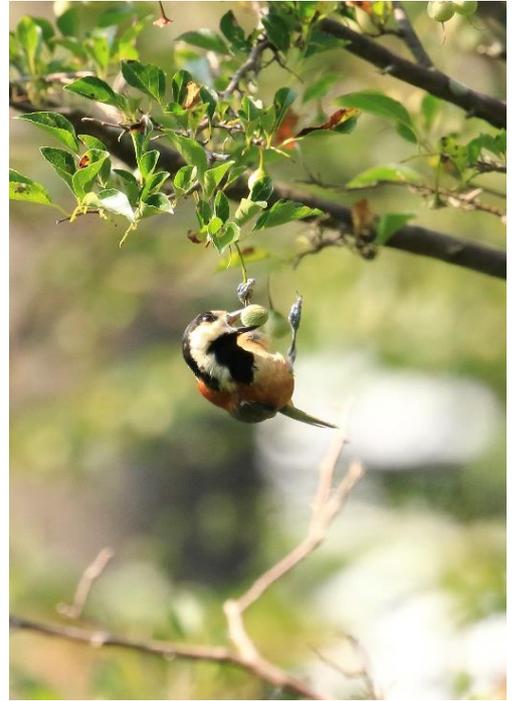
保育園での「小鳥のお話し」

野鳥写真が取り持つ縁で培った絆を大切に小さな地域貢献として続けてまいります。野鳥撮影を楽しみながら続けることが健康維持の源と感じている昨今です。

# 矢場岩男 作品集



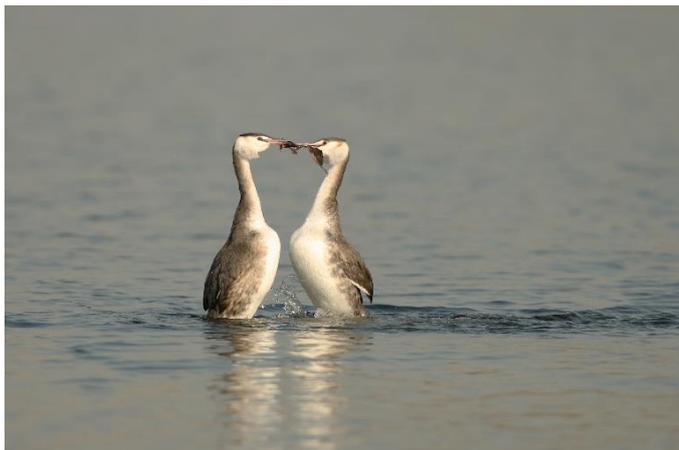
朝日新聞写真コンテスト入選 「水場争い」 アトリ



第47回東京都展入選「曲芸」ヤマガラ



第8回全日本動物写真コンテスト銀賞「盗られてたまるか」ツミ



第10回全日本動物写真コンテスト  
銅賞「スキスキ！」カンムリカイツブリ



第7回南画院展奨励賞「威嚇」セイタカシギ



# 明治大学マンドリンOB倶楽部 第21回町田演奏会



第20回演奏会 (2023.3.11)



スペシャルゲスト

**竹島 宏**

(明治大学経営学部卒業)

## 2025年3月9日(日)

13:30開演 (12:30開場)

### 会場 町田市民ホール

町田市森野2-2-36・小田急線「町田」駅徒歩7分

前売り券2800円／当日券3000円(全席自由)

前売り券取扱所

町田市民ホール 042-728-4300

鈴木楽器店 042-726-9811

明治大学校友会町田地域支部

## 主催 町田駿台会

事務局 町田市木曽西3-10-7 (野平方)

TEL 042-792-0567 FAX042-794-0791



ただいま会員募集中！ (明治大学卒業生であればどなたでもご参加できます。)